

## 57 適塾の塾頭 松下元芳(筑後久留米藩医)

### の紹介

中山 茂 春

適塾の塾頭をした福沢諭吉は慶応義塾の創始者として、『学問のススメ』等の著者とし、また現在、壱万円札の顔として日本的に有名である。

しかしながら、福沢諭吉の一代前の適塾の塾頭をした筑後久留米藩医(奥詰)の松下元芳についてはほとんど知られていない。

福沢諭吉と兄弟の如く仲が良く、『福翁自伝』にもその思い出話が出ている。また、長与専斎の『松香私志』にも記述されている松下元芳については一般の人にはほとんど知られていない。それどころか医史学会会員の方でさえ全ど御存知無いのである。それは筑後久留米藩自体余り知られていないのである。その証拠に約十五年程前に「緒方洪庵と適塾展」が大坂や福岡等で開催された。そ

の際、私は福岡の会場のお手伝いをさせていたが、こんなエピソードがありました。その時期に合わせて、テレビでNHKの大河ドラマ(毎週日曜日八時から八時四十五分)の「獅子の時代」が放送されていました。主演は菅原文太さんで、私の記憶では中村勘九郎さんが高松凌雲役を演じていたと思います。高松凌雲は、筑豊

久留米藩御原郡(現在の福岡県小郡市)の出身で、文久元年(一八六一年)四月二十一日に大阪の緒方洪庵の適塾に入門。その後、幕府奥詰医師となり、慶応二年十二月七日、幕命により松平民部大輔(徳川昭武。慶喜の舎弟で当時十四歳)のお付きの医師としてフランスのパリで開催された万国博覧会に派遣されました。明治維新の戦争では幕府方で函館野戦病院の院長として敵味方に関わらず、総ての傷病兵を治療しました。戦後は新政府に参加せず、東京の浅草で開業し、八十一歳で逝去するまでに百十一万余人に治療を行いました。高松凌雲はNHKの大河ドラマにより一躍全国的に有名になりました。そしてこの年の「緒方洪庵と適塾展」で目玉の一つでした。福岡の会場には大阪大学の梅溪昇教授や内藤記念くすり

博物館の青木允夫先生等がお見えになりましたが、その際、出迎えた私に梅溪教授が「新幹線で丁度、高松凌雲先生の出身地の小郡を通ってきました。ここが凌雲先生の出身地かと思いつきながら感無量に見てきました。」と、あまりに嬉しそうに言われたので、私としてはその場の雰囲気壊してはいけないような気がして笑っていただけでした。実は、新幹線を通ってこられた小郡駅は、山口

県の小郡町なのである。高松凌雲の出身地である福岡県小郡市とは、新幹線の終着駅である博多駅で下車、福岡市天神で西鉄大牟田線に乗り換えて急行電車で約三十分程南へ下った所に位置しています。(JR鹿兒島本線は通っていません)これほど筑後久留米藩自体が知られていないのであります。ましてやこの藩の藩医で適塾の塾頭をした英才の松下元芳は、適塾の塾頭の所に名前はありますが、ただ名前だけで、どんな人物であったかなどは医史学会会員の方々が全く御存知無くても不思議ではないのです。

松下元芳は、天保二年(一八三二年)に出生。天保十五年、十四歳で日田の広瀬淡窓の咸宜園に入門。この咸宜

園は村田蔵六(後の大村益次郎)が入門し、後に適塾の塾頭をしているが、松下元芳も全く同じ道を歩み、後に適塾に入門して塾頭になっている。

しかしながら、大村益次郎や福沢諭吉が歴史に名が残ったにも関わらず、松下元芳は無名である。

今回の学会において、この松下元芳についてご紹介申し上げます。

(中山為春医院)